

2006.5.31

～渡航情報（スポット情報）～

（件名）

アフガニスタン：治安情勢

（内容）

1. アフガニスタンについては、これまでも、カブール、ジャララバード、ヘラート、パーミアン、カンダハール、マザリ・シャリフ各市内について「渡航の延期をおすすめします。」を、これらを除く全土に対して「退避を勧告します。渡航は延期してください。」を発出しており、また、スポット情報において、累次にわたりテロや誘拐の脅威について注意を促しています（2006年5月23日付けスポット情報「治安情勢」等）。

2. 報道等によれば、最近、アフガニスタンで発生した主な事件は以下のとおりです。

（1）5月22日（現地時間、以下同じ）、ワルダック県で、保健関係プロジェクトの医師等が乗った車両付近で爆弾が爆発し、医師1人、看護師2人、運転手1人が死亡しました。

（2）5月22日、ヘルマンド県で、武装グループが警察の車列を攻撃し、警官3人が死亡、6人が負傷しました。

（3）5月23日、ヘラート県ヘラート市で、短時間の間に、警察署付近、インド総領事館付近等計4カ所で爆弾が爆発しました。

（4）5月23日、ウルズガン県で、タリバーンの待ち伏せ攻撃によりアフガニスタン兵士4人が死亡しました。その後、連合軍がタリバーンの陣地を空爆し、タリバーン60人が死亡しました。

（5）5月23日、パクティカ県で、連合軍用の燃料を運搬していたトラック3台が襲撃され、運転手3人が死亡、トラック3台が放火されました。

（6）5月24日、ガズニ県で、帰宅途中の聖職者がタリバーンに誘拐され、その後

銃殺されました。

(7) 5月24日、ナンガルハル県で、連合軍車列付近において爆弾が爆発し、その後、武装勢力による銃撃等の攻撃を受けて、米軍兵士1人が負傷、車両2台が損傷しました。

(8) 5月24日、ヘルマンド県で、タリバーンが郡警察本部を襲撃し、銃撃戦となりました。その結果、警官2人、タリバーン2人が死亡、警官3人、タリバーン1人が負傷しました。

(9) 5月24日、カンダハール県で連合軍がタリバーンと戦闘し、タリバーン12～15人が死亡、同7人が負傷しました。

(10) 5月25日、ヘルマンド県で、タリバーンが郡庁舎と郡警察本部を襲撃し、警察と銃撃戦になりました。その後、英国軍が駆けつけ、タリバーン12人、市民1人が死亡しました。

(11) 5月25日、カンダハール県で、アフガニスタン軍とカナダ軍車列付近で爆弾が爆発し、アフガニスタン兵1人、カナダ兵5人が負傷しました。

(12) 5月26日、首都カブール市第7地区で爆弾が爆発し、一般市民2人が死亡、2人が負傷しました。

(13) 5月29日、首都カブール市で、通勤ラッシュ時に連合軍車列と民間車両が交通事故を起こし、少なくとも市民1人が死亡、17人が負傷しました。その後、同事故に対する民衆による抗議デモが、同市内の外務省、米国大使館、テレビ局付近等数ヶ所で発生し(2,000～3,000人が参加したとの報道もあります)、少なくとも数人が死亡、多数が負傷した模様です。

3. アフガニスタンにおいては、引き続き、自爆テロなどの爆弾テロ攻撃、誘拐・殺害事件が発生しています。また、これまでに、反政府勢力は犯行声明にて、「我々は多くの自爆テロ要員を抱えている。この戦術は外国軍がアフガニスタンから出て行くまで続く。」「タリバーンはアフガニスタンにいる米国人を支援する全ての外国人を標的にする。米国人を支援する外国人は誰でもタリバーンの攻撃に遭うだろう。」と述べているとの報道があるなど、反政府勢力は、政府関係者のみならず、外国人、民間人、援助関係者等にまで標的を拡大し、テロ攻撃や誘拐を実行してい

ます。また、首都カブール、カンダハール、パキスタンとの国境付近、東部・南部地域を始め、国内のあらゆる地域で自爆テロを含む爆弾テロ攻撃、誘拐事件及び襲撃事件が発生する可能性があります。特に、幹線道路や街道では爆弾事件や襲撃事件が多発しており、陸路での移動時における被害が多く報告されています。

4. 上記の情勢にかんがみ、引き続き退避勧告が発出されている地域には渡航・滞在しないよう、また、それ以外の地域については、渡航を延期するよう強くおすすめます。2005年9月初めには、行方不明となっていた日本人旅行者2人がカンダハール郊外で遺体で発見される事件が発生しており、また、上記のとおり誘拐の脅威がありますので、観光目的などの不要不急の渡航は厳に差し控えて下さい。また、パキスタンからの陸路による入国を含め、陸路での都市間及び都市・国境間の移動は極めて危険なため、アフガニスタン全土において差し控えるよう強く勧告します。

5. これにもかかわらず、やむを得ない事情により、同国に渡航・滞在される場合には、予め退避手段を準備の上、危険情報・スポット情報の内容に留意し、テロ・誘拐事件等不測の事態に巻き込まれることのないよう、最新の関連情報の入手に努めて下さい。米軍、ISAF(国際治安支援部隊)、アフガニスタン国軍、警察、国連、国際機関等の施設・車両、大統領府・中央官庁・議会ビルなどの政府関連施設、ジャラバード街道、主要国大使館、欧米系企業など外国企業、繁華街、バザール、レストラン、インターネット・カフェ、モスク、外国人の多く集まる場所等テロの標的となる可能性のある危険な場所を可能な限り避ける、不審な車両、荷車、人物等には近づかない、不要・不急及び単独での外出は控え、必要に応じ防弾車・身辺警護員を配備する、行動のパターン化を避ける、出発・到着時間及び行き先を関係者に報告する、携帯電話等連絡手段を持つ、事務所等についても必要な警備措置を講じる等、厳重な安全対策を講じ(誘拐対策の詳細はhttp://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph_04.htmlを参照してください)、自らの安全確保に注意を払ってください。特に上記3.で指摘したとおり、地方の道路を含め陸路での移動は極めて危険なので避けてください。さらに、同国に入国し次第、

必ず緊急連絡先を日本国大使館領事部に連絡してください。同領事部では、上記情報の詳細等現地治安情勢に関する情報を必要に応じ提供しています。

（問い合わせ先）

○外務省領事局邦人テロ対策室（テロに関する問い合わせ）

電話：（代表）（03）3580-3311（内線）3399

○外務省領事局海外邦人安全課（テロに関する問い合わせを除く）

電話：（代表）（03）3580-3311（内線）5139

○外務省海外安全相談センター

電話：（代表）（03）3580-3311（内線）2902

○外務省海外安全ホームページ：<http://www.mofa.go.jp/anzen/>

○在アフガニスタン日本国大使館

電話：（873）762-853-777

（93）799-689-861（夜間、緊急を要する場合）

FAX：（873）761-218-272

アフガニスタンに対する渡航情報(危険情報)の発出

-
- 下記以外の地域
:「退避を勧告します。渡航は延期してください。」(継続)
 - 首都カブール、ヘラート、マザリ・シャリフ、ジャララバード、カンダハール、
パルミアン各市内
:「渡航の延期をおすすめします。」(継続)
-



- 凡例:
- 「退避を勧告します。渡航は延期して下さい。」
 - ▨ 「渡航の延期をおすすめします。」
 - ▤ 「渡航の是非を検討して下さい。」
 - ▧ 「十分注意して下さい。」

閉じる

Copyright:2006 The Ministry of Foreign Affai